

海外感染症流行情報(2014年2月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・中国での鳥インフルエンザ H7N9 の流行

昨年末から中国南部を中心に発生していた鳥インフルエンザ H7N9 の第 2 波流行は、2 月末になり沈静化傾向にあります(WHO Global Alert and Response 2014-2-21)。患者数は昨年 2 月以来 350 人以上に達しており、このうち半分以上が第 2 波の流行で発生しています。WHO は 2 月に行われたリスクアセスメントで、第 1 波に比べてウイルスに大きな変異はないとの見解を示しています(WHO Global Alert and Response 2014-2-11)。日本の国立感染症研究所も同様のアセスメントを発表していますが、今後、H7N9 ウイルスがパンデミックをおこす可能性は否定できないとも述べています(国立感染症研究所 2014-1-29)。なお、2 月上旬にマレーシアのサバ州で、中国からの女性観光客が肺炎をおこし、H7N9 の感染であることが判明しました(WHO Global Alert and Response 2014-2-17)。中国及び台湾以外では初めての事例です。

・フィリピンからの麻疹輸入例が増加

日本では 2013 年 11 月下旬から 2014 年 1 月下旬にかけて 61 人の麻疹患者が報告されていますが、このうちの 24 人は海外からの輸入例でした(感染症発生動向調査週報 2014 年第 4 週)。とくにフィリピンでの感染例が 17 人にのぼっており、厚生労働省ではフィリピン滞在中の注意を呼びかけています(厚生労働省 2014-2-7)。フィリピンでは 2014 年 1 月にマニラなどで約 1100 人の麻疹患者が確認されており(厚生労働省検疫所 HP 2014-1-30)、英国、カナダ、オーストラリアでもフィリピンからの輸入例の増加が報告されています(英国 Fit For Travel 2014-2-11)。

麻疹は空気感染する病気で、予防にはワクチン接種が有効です。麻疹ワクチンを受けていない人や接種回数が 1 回だけの方は、フィリピン滞在前にワクチンの追加接種を受けておくことを推奨します。

・南太平洋でジカ熱が流行

昨年 10 月から南太平洋のタヒチ島などで蚊に媒介されるジカ熱が流行しています。患者数は疑いを含めると 8000 人以上にのぼっており、流行はニューカレドニアにも拡大している模様です(米国 CDC Traveler's Health 2014-2-13)。また、昨年 12 月、タヒチ近隣のボラボラ島に滞在していた日本人観光客 2 名が帰国後、ジカ熱を発病しました(病原微生物検出情報 2014 年 2 月)。

ジカ熱はデングウイルスに近縁のウイルスがおこす感染症で、発熱や発疹がみられます。昼間に吸血する蚊が媒介するため、南太平洋のビーチなどで日光浴をする際には蚊に刺されないよう十分に注意しましょう。

・シンガポール・マレーシアでデング熱患者が増加

シンガポールでは昨年、デング熱の患者が約 2 万人発生しましたが、今年も 2 月中旬までに 2500 人以上の患者が確認されています(厚生労働省検疫所 2014-2-21)。この数は昨年同期の 1.5 倍になりま

す。隣国のマレーシアでも今年は昨年の2倍の患者が発生している模様です(WHO Western Pacific Region 2014-2-12)。両国では今後も雨の多い時期が続き、蚊の発生も多くなるため、滞在中はデング熱への十分な予防対策が必要です。

・インド入国者へのポリオワクチン接種

本誌2014年1月号で、インド政府がポリオ常在国(パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアなど)からの入国者に、2月から生ポリオワクチンの接種証明書提出を要求することをお伝えしました。その後、インド政府は、この要求を日本人などの外国人には適応しないことを発表しました(インド日本大使館2014-2-5)。同国に滞在する方は、今後もインド政府の発表にご注意ください。